



日本 ハンザキ研究所ニュース 2010(3) : 通巻 No. 51

発行 2010年3月31日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

URL: <http://www.hanzaki.net>

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

.....
ハンザキの民俗資料③

ケータイ入れ? デジカメ入れ?

生野は江戸時代には重要な銀の生産地であったために天領であり代官所があった。生野に集まってくる人々のための郷宿・井筒屋内でボランティア活動をしているいくの銀谷工房（かなやこうぼう）のお母さんたちの作品です。私のような不ケータイ人間には考え及ばないことでしたが、ケータイ命の若い人のアイデアでした。昔の着物の生地を使って手縫するので、一つとして同じデザインのものはありません。ひも付きで首からぶら下げるものとベルトに付けるタイプがあります。ハンザキの大口にはマジックテープが付いていますので、開閉にも手間がかかりません。かわいいデザインですので、飾りにしている方もあります。同じキャラで小銭入れやストラップ、キーホルダー、抱き枕などが作られています。



擦り切れたデジカメ入れ（左）と2代目（右）

ところで、私もこのケータイ入れを愛用しています。デジカメが入っているのです。ハンザキの調査では頻繁にカメラの出し入れが必要になります。首からぶら下げてウエダーの中に入れておけば、すぐに取り出すことができます。しかし、フィールドワークではバッテリーが切れてしまうのは致命傷です。そこで、少し小さい小銭入れを自分で縫い付けて“オンブ・ハンザキ”にして予備のバッテリーを入れることにしました。これはナイス・アイデアでした。どのくらい使ったのか分かりませんが写真のようにズル剥けになるほど磨り減ってしまいました。フィールドワークはなかなか荒っぽい扱いになりますので現在は、2代目のものを使っています。

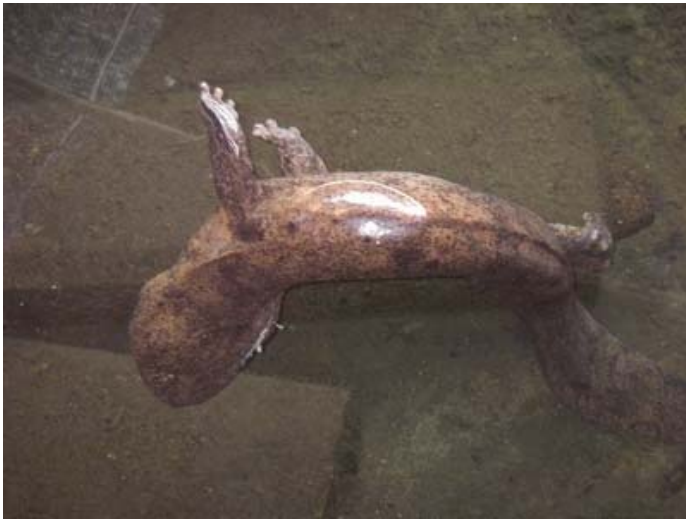


写真1 ガスがたまって横向きに水底で浮く



写真1 ハンモックに入れられたカモガワ・ハンザ



写真3 液体が抜かれてバランスが良かった



写真4 意外と小さな口蓋骨歯列

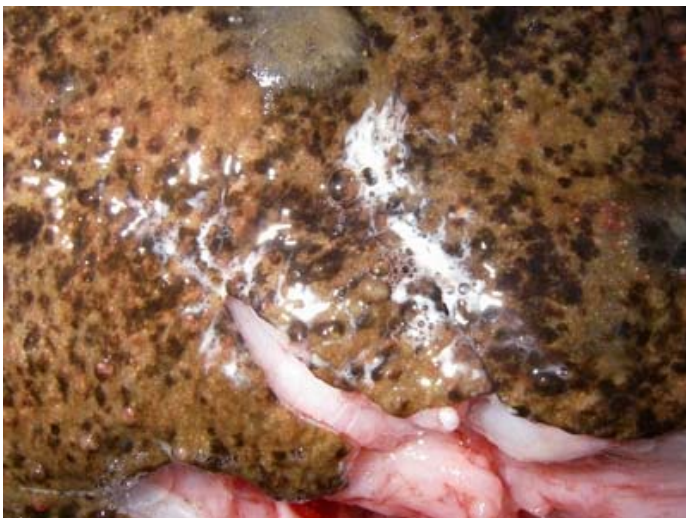


写真5 死体の皮膚から白い粘液が出る



写真6 9日のドカ雪

カモガワ・ハンザキの死亡

京都の賀茂川で野生化している中国ハンザキと日本産のものとのハイブリッドの問題は、当ニュースでも再々取り上げてきました。2008年5月に5個体の収容をしてからも次々と確認される外来種ですが、2009年末で60個体を数えるほどになってしまいました。3×5m水深60cmの狭いプールにひしめいています。9トンの水が1時間でターンします。水底にある多数のエンビ・パイプの半切りの寝床に収まっている様子では、狭さを感じさせません。

収容してから日本産のものとの差が色々と分かってきました。運動能力が抜群であることは以前にも書きましたが、待ち伏せ型の餌取りをするハンザキと異なり、口を半開きにして餌にアタックする姿は迫力があります。また、餌をくわえた個体の頭に数匹が咬み付いていくのもハンザキではほとんど見られないことです。学習の結果かもしれませんが餌魚のアマゴに餌のペレットを与え始めると、寝床の中から上半身をせり出して捕食の態勢になります。この3年間で7個体の死亡がありましたが、3匹は四肢をしゃぶられて骨になっていました。死んだり弱った個体に群がって襲い掛かってシャブってしまうのです。

昨年の9月にNo.22の個体が腹部にガスが溜まって、横向きに浮きました。死んでいるのかと思って網ですくい上げると大きく息を吸って生きていることが分かりました。頭が下にあるために肺呼吸ができなかったようです。そこでハンモックを作って体が水平になるようにして水面ギリギリにセットしてやりました。しばらくして見に行くと脱出して水底で再び横向きに浮いているのです。そして左右の後肢に2匹のカモガワ・ハンザキが食らいついていたのです。急いで隔離しましたが両後肢とも大怪我で動かすことができなくなっていました。隔離したエリアには右前肢付け根を大きくかまれた個体がいいたのですが、数日後にガス個体は右腹部を咬まれました。

今年の1月に注射筒を使ってガス抜きを試みましたが抜けません。何回か針を刺すうちに透明な液体が出てきました。絞ると500ccも出たのです。腹部の傷もかさぶたが取れて順調に回復中でしたし、水分を抜いた後はバランスも良くなったのでこのまま回復するものと期待したのですが、尾部全体が水生菌によって覆われて死亡してしまいました。卵塊を保護しているオス親が死卵の水生菌の発生を防いでいると考えているのですが、自分の体のカビの発生を防ぐことができないのは不思議です。さらに、ガスがどこに溜まっていたのか知りたくて解剖しましたが、見当たりませんでした。この時、ハサミを入れた部分の表皮から白い粘液が出てきたのです。死亡してからの正確な時間が分かりませんが、死亡していても自己防衛のための粘液が出ることに驚きました。これまで、何回かのハンザキの解剖では気づけなかったことでした。機会があればハンザキの解剖の時に注目してみたいと思っています。京大の松井教授のDNA鑑定結果は、この個体は日本産と出ていましたが、外見上は完全なハイブリッドでした。口蓋骨歯列もハンザキに比べて小さいのも意外でしたが、全てがそうなのかどうか、今後の観察を増やすことが必要だと思いました。

ハンザキ研ヒト往来①

“山ちゃん” こと山崎幸一さん

山ちゃんとの付き合いは長い。姫路市立水族館でウミガメ卵の孵化実験を卒論として取りくんだ 1977 年以來のことです。卒業後には南紀白浜ワールドサファリ（現・アドベンチャーワールド）の飼育係を振り出しにいくつもの水族館（タートルアム、ネイブルランドなど）で仕事をしてきました。最後は沖縄の久米島のウミガメ館（奥武島タートルアイランド）の館長を勤め、現在は悠々自適の生活を故郷の福岡県で過ごしています。この間には、ウミガメ資源調査でパラオ・トラック・ポナペなど、その昔日本が統治していた時に内南洋諸島と呼ばれた地域を 1 か月間一緒に過ごしたこともありました。

2000 年に琉球大学で爬虫両棲類学会が開催されたチャンスにまず久米島に寄りました。ダイビング・スポットとして知られている久米島ですが、台風銀座の沖縄では、折角来ても荒海では潜水もできない観光客に対してのスポットとして久米島ウミガメ館が開設されたようです。沖縄本島からのフライトで閉口したのは金属探知機の過剰な反応でした。腕時計もコインもタイピンも全て外したのに OK が出ませんでした。ウイスキーボトルまでキャップを開けて鼻で検査されました。検査の女性も大変だな、アルコールに弱い人には出来ない仕事だと思いつつ眺めていました。結局全身タッチ検査で通してもらったのですが、帰りはスムーズに 1 回でパスしたのです。後ろで見ていた山ちゃんもにっこりのパスでした。

彼との 33 年になる付き合いは、私のハンザキとの付き合いの 36 年に近い数字です。無論ハンザキ調査にも参加してもらったこともあります。毎年のように賀状には、今年もインドネシアへちょっと行ってきますとあります。インドネシアへは私もウミガメ資源調査（実際にはベッコウ細工のためのタイマイというウミガメの資源状況調査なのですが）で 1 か月ほど行ったのですが、ボルネオ・ジャワといった熱帯アジアの自然は素晴らしいものでした。山ちゃんとは同行していませんが、彼も数回のインドネシア行ですっかり虜になってしまったようです。ボルネオはアマゾンやアフリカと並んで自然豊かな 3 大ゾーンです。子供の頃の憧れのマンガのヒーロー“冒険団吉”が活躍した舞台なのですから無理はありません。でも、外国ばかりではなく、ハンザキ研を訪ねてくるように便りしました。

そして 3 月 18 日に、10 年ぶりの山ちゃんがハンザキ研に姿を現しました。同行の 3 人は白浜のサファリ時代の仲間だと言うことでした。30 年を超えていい付き合いが続いているようで私も嬉しく思いました。



2000 年 11 月 3 日
久米島ウミガメ館
山ちゃん（左）と

お知らせ

① 来所者数 10,000 人目のセレモニー

平成 17 年以來の来訪者数が間もなく 1 万人目を迎えます。予想としては 4 月の下旬になりそうです。調査回数の方も、昭和 50 年から 300 回に到達しました。調査日数の方は平成 16 年 12 月までは 179 回の調査で 289 日ですが、以後は 5 年間で 116 回 1,229 日と今年の 1~3 月だけで 86 日をくわえて 1,315 日と急ピッチで増えました。それは、ハンザキ研に籠もっているからです。来訪者数も当ニュースレター No.48 の表にありますように、昨年末で 9,082 人です。

今年の 3 か月間で来訪者数は、9,600 人ほどになりましたので、順調に行けば 4 月の終わりごろかなと考えています。一応イベントとして 29 日に設定して、当日の午後 1~2 時の間で最も 1 万人目に近い方を選ぶことにしました。皆さんも是非挑戦してみてください。記念品はハンザキ・抱き枕です。抱き枕は好評で、今ではいくの銀谷工房一番人気の商品です。昨年 1 年間で 60 体以上も売れ、常に注文して数週間待たねばならないそうです。

② ハンザキ研ニュースのバックナンバーについて

2 月で区切りの 50 号を出すことができましたが、途中から入会して下さった方からバックナンバーも読みたいという希望が多いことで、ホームページに公開することにしました。ただし、刊行してすぐに公開しては会員の皆様に申し訳ありませんので、1 年以内の分は非公開です。関心をお持ちの方は是非ページを開いてみてください。ほとんど一人で書いて月刊で出し続けるのは大変なことですが、好評であると言うことで励まされますが、できたら、多くの方に投稿をお願いしたいし、感想やご希望などなんでもお知らせいただければ幸いです。

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

新しい年になってあっという間に 3 月も終わってしまいました。下界ではサクラの開花が報道されているようですが、ハンザキ研は標高 460 ほどで生野の街中からも半月ほど遅れます。下界で花見をしそこなつたと言う方は、当地ではこれからが花見時です。4 月の始めでやっとコブシの蕾が膨らみ始めました。植林地帯の下生えとしてミツマタの黄色い花が満開ですし、アセビもぽつぽつと花を開いています。フキもあっという間にトウが立ってしまいました。

私にとって春の使者はヒキガエルの産卵です。研究所周辺で確認されている 4 か所の産卵も確認できましたし、今年はアライグマによる食害の情報もありませんでした。しかし、産卵量が減少している場所もあって気になるところです。

ハンザキ研日誌 2010年3月

- 1日 ・ウグイスの初音あり
・緑色レーザーポインター受贈
- 2日 仮設トイレ1基の冬季使用可能に、暖房便座・温風機設置
- 4日 カモガワ・ハンザキNo.22 死亡 (昨年9月に腹部ガスでバランスを失い、隔離中)
- 5日 神河町教育委員会・谷口さんから温水プールのハンザキ・ワッペン (1~11級までの上達度を示すもの) と Tシャツ受贈
- 6日 ビデオ・ライブラリー開設
- 7日 ウロディアの立脇康嗣氏来泊
- 8日 オオサンショウウオの月例健康診断 (ウエスコ山下・東口氏と立脇氏・奥藤司氏)
- 9日 ・朝、積雪 20 ㍉、一日降雪でこの冬一番の 50 ㍉積雪となる
・兵庫県豊岡土木事務所 2 名来所 (円山川水系自然再生推進委員会・技術部会へ)
・マイクロチップ読み取り機 (ポケット型) 購入
- 10日 大阪府安威川ダム建設事務所 2 名来所 (委員会の事前説明)
- 14日 GS-298 終了 (2月27日~)
- 15日 大阪府安威川ダム建設環境委員会
- 16日 ・円山川水系自然再生推進委員会・技術部会 (円山川防災センターにて)
・GS-299 開始 (~3月28日)
- 17日 ・コムサロン 21 のスタッフ 3 名と税理士が税務相談に来所
・ 県養父土木事務所にて、来年度のオオサンショウウオ飼育日常管理業務契約
・ 田口勇輝研究員 (京大大学院生) 広島市安佐動物公園の飼育係採用決定
- 18日 ・山崎幸一氏 (元・南紀白浜アドベンチャーワールド、タートルイアム、ネイブルランドなどの飼育係) ほか 3 名視察に
・会計の黒田哲郎さん手術 (右足骨折)
- 19日 生野ダム下河川工事で最終の調査でハンザキ 2 個体収容・株式会社ウエスコ
~20日
- 20日 ・事務局会議 5 名出席
・ハンザキ研ニュースNo.48 と 49 と今年のイベント予定表の発送
- 22日 ・生野ダム下流で最終工事再開
・梅ヶ畑のヒキガエル産卵場調査、卵塊が例年の半分以下であった。
- 24日 トランシーバー4 台購入
- 26日 円山川水系自然再生推進委員会開催 (豊岡市ビジネスイン豊岡にて)
- 28日 ・産経新聞豊岡支局長谷下記者取材に来所
・GS-299 終了 (3月16日~) 歯痛に耐えかねて急遽下山
・日下りんご園のりんご・オーナー制度説明会
- 30日 GS-300 開始 ついに 300 回目の調査まで達しました。